

● 蒲生干潟の消失

【経緯】

蒲生干潟は、仙台市東部の仙台港の南側に位置し、七北田川河口の左岸に水面積 13ha、干出面積約 5ha の小さな潟湖干潟（潟湖にできる干潟）です。昭和 48 年に国指定仙台海浜鳥獣保護区蒲生特別保護区に指定されました。

干潟には貴重な野鳥（シギ・チドリ・サギ等）や底生動物（貝類・カニ・ゴカイ等）が多く生息していましたが、東日本大震災の影響による地盤沈下、津波による砂の流出が発生したため、干潟が消失してしまいました。以下の東日本大震災前（H21.3）と震災後（H23.3）の干潟の写真を確認すると、その状況が見て取れます。



震災前の蒲生干潟(H21.3)



震災後の蒲生干潟(H23.3)

【活動成果・状況】

東日本大震災により蒲生干潟は一度消失しましたが、現在では砂浜が完全につながり、袋状の形状を取り戻して潟湖の汽水環境を取り戻しつつあります（平成 25 年 11 月現在）。その結果、震災前に生息していたダイサギ等の野鳥、フトヘナタリ等の底生生物が確認されるようになりました。



現在の蒲生干潟(H25.11)



ダイサギ(H25.1)



フトヘナタリ(H25.2)

東北地方整備局 仙台河川国道事務所 HP <http://www.thr.mlit.go.jp/sendai/index.html>

（「明日へつなぐ」仙台湾南部海岸堤防復旧プロジェクトより）

環境 HP <http://www.env.go.jp/>

（蒲生干潟自然再生全体構想より）

東北地方環境事務所 HP <http://tohoku.env.go.jp/>

（国指定鳥獣保護区モニタリング・被災ペットの支援に向けた取組【野生生物課】より）

仙台市科学館 HP <http://www.kagakukan.sendai-c.ed.jp/>

（重点研究「蒲生干潟の自然復元プロセスを追跡します」より）